

## ○ プリマハム入社式、「利益とCSRが両輪、同期は貴重な財産」と松井社長が挨拶

プリマハムは4月1日、17名の新入社員を迎え入社式を行った。松井鉄也社長は、「会社は利益とCSRの両輪で動いている」「社長をえらいと思うな」「新入社員は何でも質問できる」「同期は貴重な財産」など、新社会人へメッセージを贈った。

松井社長は、普段から従業員に言っていることが2つあるとして、ひとつ目に「会社は利益とCSRの両輪で動いている」ことを挙げた。利益をあげない限り会社は生き残ることができないが、同時に品質管理、環境経営、内部統制など、企業の社会的責任を果たしていくことが必要であり、「利益をあげながら、社会的責任を全うする。これが会社にとって一番大切なこと」と強調した。

もうひとつは「社長を偉いと思うな、部長

や課長を偉いと思うな、仕事をする人が偉い」ということ。上司の顔を見て仕事をするのではなく、お得意先を向いて仕事をするのが大切であり、その地位(役職)にふさわしい仕事をする人が「偉い」と指摘した。

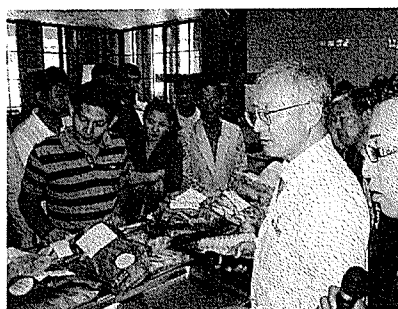
また「新入社員は何でも質問できる」が、3年くらいたつとなかなか新入社員のように何でも質問することは難しく、「この機会を活かして、今日からどんどん上司や先輩に質問、必ずメモをとって知識を増やし、自分のものにしてほしい」と述べた。

最後に、「今日ここにいる17人の同期は貴重な財産。部署はいろいろと分かれるが、これからずっと同じ目線でものを言い合うことができる。ぜひ同期を大切に、頑張してほしい」とエールを送った。

## ○ バンコクで和牛のプレゼン、現地の潜在需要の高さを実感—ミートコンパニオン

ミートコンパニオンは3月26日、タイ・バンコク市内で同社の海外輸出向け和牛ブランド「WAGYU SAMURAI」のプレゼンテーションを開いた。会場には現地のホテル、レストラン、百貨店、高級食材店など100人以上が訪れ熱気に包まれるなど、タイ市場における日本産和牛への関心の高さが伺えた。会場にはロースをはじめ、ランプ、ミスジ、三角バラなど計22部位を展示し、すき焼きやしゃぶしゃぶなど日本ならではの和牛の食べ方を訴求。来場者からはカットの整形やラベルの表記、各メニューの原価計算など質問が相次ぐなど、ロース以外の需要の可能性を認識させる展示会となった。

当日のプロモーションは3部に分かれ、第1部では、日本における和牛の個体識別番号制度を中心に、子牛の誕生から子牛への耳標装着、素牛生産農家から肥育農場への移動などを説明。さらに、生体がと畜され、耳標から個体識別番号が枝肉のラベルに移行され、それが小売りパックのラベルに表記されている点を紹介するなど、世界屈指の制度であることを紹介した。さらに、このトレースに合わせて、子牛登記書で3世代まで血統管理されていること、グレードが歩留り等級と品質等級4項目が精査され格付けされることも説明。また和牛肉の調理例として、しゃぶしゃ



ぶ、すき焼き、網焼きなど、タイではまだ一般的ではない調理例が紹介された。

第2部では、各部位の特性、調理やカット方法が紹介され、

来場者は実際に手に取ってカット整形状態やラベル表記に感心を寄せていた=写真。3部では、ランプ、シンタマ、トモバラ、三角バラなど合計約50kgについてカットセミナーと商品化、試食を提供した。

会場からは、今回紹介した「WAGYU SAMURAI」と、ほかの銘柄牛の違いについて質問が上がり、ミートコンパニオンの植村光一郎常務は、「従来の和牛の海外戦略は地域を特定したブランド化だったが、地域を特定するのではなく、熟練した生産農家を和牛侍として和牛生産農家を厳選し、その生産者から生産される和牛に『WAGYU SAMURAI』の称号を与える。そして和牛の形質は遺伝的要因と飼養管理から成り、匠に相応しい飼養管理者により初めて100%の和牛の品質が形成されることから、むしろ地域にこだわらない最高の和牛を供給したい」と訴えた。